

1年次		2年次				3年次			
前期	後期	前期	後期		前期	後期		前期	後期
発達心理学	教育原理 保育内容(言葉) 保育内容(人間関係)	教職論 保育指導計画の方法 保育内容(健康)	保育内容(環境) 保育内容表現 I 特別支援教育 教育相談 幼児の運動と遊び I	子どもの理解の理論及び方法	保育・教職実践演習 I	保育・教職実践演習 II	保育内容総論 保育総合表現 子ども研究 II	保育・教職実践演習 II	保育内容総論 保育総合表現 子ども研究 II
音楽 I 図画工作 I 保育入門演習 国語	音楽 II 図画工作 II 保育技術演習	教育方法論 幼児の運動と遊び I 子ども基礎研究 I 幼稚園教育実習 I	子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 幼稚園教育実習 II	子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 幼稚園教育実習 II	子ども研究 I 保育実務研修 I 実習指導 I b 保育実習 I b	子ども研究 I 保育実務研修 II 実習指導 I b 保育実習 I b	子ども研究 II 保育実務研修 III 実習指導 III 保育実習 III	子ども研究 I 保育実務研修 I 実習指導 I b 保育実習 I b	子ども研究 II 保育実務研修 IV 実習指導 III 保育実習 III
	実習指導 I a 保育実習 I a	実習指導 II 保育実習 II	実習指導 II 保育実習 II	実習指導 II 保育実習 II	実習指導 I b 保育実習 I b	実習指導 I b 保育実習 I b	実習指導 III 保育実習 III	実習指導 I b 保育実習 I b	実習指導 III 保育実習 III
保育原理 子どもの保健 乳児保育 I 幼児と言葉	子ども家庭福祉 社会福祉 子どもの健康と安全 障がい児保育 I 乳児保育 II 幼児と健康	社会的養護 I 子ども家庭支援論 障がい児保育 II 幼児と音楽表現 I 幼児と造形表現 II	子ども家庭支援の心理学 社会的養護 II 子どもの食と栄養 幼児と音楽表現 II 幼児と造形表現 II	社会的養護 II 子どもの食と栄養 幼児と音楽表現 II 幼児と造形表現 II	子育て支援 保育者のためのピアノ I 保育内容表現 II	子育て支援 保育者のためのピアノ I 保育内容表現 II	在宅保育 子育て支援演 ボランティア実践 保育者のためのピアノ II	子育て支援 保育者のためのピアノ I 保育内容表現 II	在宅保育 子育て支援演 ボランティア実践 保育者のためのピアノ II
	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル	ウインドアンサンブル
音楽 I 図画工作 I 保育入門演習 国語		音楽 II 図画工作 II 保育技術演習	教育方法論 幼児の運動と遊び I 子ども基礎研究 I 幼稚園教育実習 I	子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 幼稚園教育実習 II	子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 子ども基礎研究 II 幼稚園教育実習 II	子ども研究 I 保育実務研修 I 実習指導 I b 保育実習 I b	子ども研究 I 保育実務研修 II 実習指導 I b 保育実習 I b	子ども研究 II 保育実務研修 III 実習指導 III 保育実習 III	子ども研究 II 保育実務研修 IV 実習指導 III 保育実習 III
教養科目: 必修科目 10単位 選択必修 2単位		音楽心理学 音楽理論	音楽心理学 音楽理論	音楽療法・基礎	音楽療法・基礎	音楽療法・基礎	音楽療法・基礎	音楽療法・基礎	音楽療法・技法

C P

①豊かな人間性コミュニケーション能力、社会性を育むための教養教育を実施する。
 ②子どもの健やかな成長、幸せのために、子ども理解を基に援助できる能力や、子育て支援に係る能力を育成する専門教育を実施する。
 ③実習や保育実務研修、子育てサロンへの参画など実践現場での学びと、関連する大学での学びとの往還によって、保育実践で求められる実務能力や社会人基礎力など保育力が身につく教育を実践する。
 ④保育のスペシャリストとして、社会の諸問題を解決するための知識・技能・思考力や、自らの持つ能力を伸ばすことのできる専門科目を設ける。

D P

①保育者の本質を理解し、保育者としての専門的知識に基づき、子ども理解に基づいた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を修得することができる。
 ②保育の本質を基盤に、時代のニーズに柔軟に対応した保育実践及び改善を行うことができ、外部の資源を有効に活用することができる。
 ③保育実践に必要な保育技術や情報収集力を持ち、子どもとの連携を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。
 ④豊かな教養と人間性、社会人基礎力を備え、常に資源能力の向上を図り、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していこうとすることができる。